

□はリンク

※はWAMNETの事業者情報にリンク

<b>事業所名</b>	淳厚苑	※
日付	平成 20年 2月 4日 特定非営利活動法人	
<b>評価機関名</b>	ライフサポート	
評価調査員	在宅介護経験15年	
評価調査員	介護支援専門員経験5年	
<b>自主評価結果を見る</b>		
<b>評価項目の内容を見る</b>		
<b>事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)</b> ※		

## 1. 評価結果の概要

<b>講評</b> 全体を通して(特に良いと思われる点など) 食後リビングで手持ち無沙汰のAさんに「お茶碗拭いてやあ」職員が洗い終わった食器を持って来る。「自分で拭きなさい」Aさんは普通の顔してサラリと言う。「布巾で顔拭いて、茶碗拭いて、ついでに鼻も拭いて、ならもう私には頼まんよなあ」「いやいや頼むわ」Aさんと職員のやり取りがおかしい。茶碗が拭けたと思ったら「まだあるよ」お盆も来る。「自分でしなさい」と言いつつAさんは隣のテーブルの男性に「あんたもする？」と声をかけるので、皆で大笑い。あけっぴろげにおもった事を言って、互いに遠慮がないのは居心地が良い。入所当時のAさんは、動かず何も食べず点滴のみの拒絶状態だった。「ありがとう」の言葉が出て、笑顔が出て、少しずつ食事をするようになって今のAさんが在る。入所して半年、とても楽しい明るい本来のAさんに戻ってきている。「えらいや、えらいや、え～らいやあ～」Bさんは一日中歌のように言い続けている。「いつも歌を聞かせてくれて楽しいです」と声をかけてみたら「お上手ですわいなあ～、はずかし～いやあ～」と浄瑠璃調で答えてくれる。その語り口調が面白くて「何が好きですか？」と聞いてみる。「な～にも嫌いで～す」「みんな嫌いなんですか?」「はい、は～い、左様でござんすよ～」Bさんの会話は浄瑠璃語りだ。「夜もずっと一日中歌うとる。しかし90越えて元気だわ、それにうまい事言いよる」他の利用者はBさんの歌を迷惑がりつつ、呆れて憎れて、今ではBGMの音楽代わりに受け止めている。居室で一人で居るより、リビングで皆と一緒にの方がトーンが小さくなるようだ。首にタオル巻いて入浴介助準備した職員がリビングの椅子に黙って座る。風呂嫌いの人はよく分かっている、くるりと椅子を回して背を向ける。「しらみいっぱい飼ったります、あげよか?」指先で摘まむ真似をする。職員は笑いながら、おいでおいでの手招きをすと「あんた入っておいで、又ね、又こんどうさん」「まあそう言わず」「私、あんたの事一番すきよ」「なら一緒に風呂に行こう」「連れて逃げてよ～♪」リビング全体笑い転げて、結局職員が負けて入浴はまた今度となった。職員達は人の良さの人間性そのままに利用者に向き合い、自然な声かけと大らかな包容力が温かい。利用者達はそれぞれの個性を存分に発揮できている。開設して4年、分かってくれる人と共に暮らし和気藹々、ホームは安心して過ごせる生活の場になっていた。
特に改善の余地があると思われる点 グループホームを両極端で見ると、見かけ(建物が良く広い)が良く、中味(利用者や職員の生活の様子)が乏しいと見られるホームと見かけは悪いが、中味は明るくて温か味のあるホームがある。当然このホームは後者に当たり、敢えて云うならば、このホームのケアやサービスには、一つひとつややこしい評価基準は必要ないと思える位、利用者も職員も生き生きとした表情で行動している。ホームに入所した利用者は、それぞれに人間を失いつつあった人が、見事に回復して、その人らしい生活をしている実績を、記録に詳しく残しておいてもらいたいと思う。

## 2. 評価結果(詳細)

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について・・・「真心で家庭の味わい」の理念そのものの生活を実践しているの で、改善の必要はない。</p> <p>2. 全体的に見て・・・「急がないで、ゆっくり仕事をして下さい。家事や洗濯なんかは利用者が 寝てしまった夜でもいいんだから。利用者とおしゃべりしながら、のんびり仕事して下さい」管理 者は常日頃職員達にそう言っている。利用者と遊ぶもよし、話すもよし、それが生活には一番大 切で、それも仕事だとよく分かっている。「90過ぎて何であくせくせんとあかんの？」利用者の言 葉をもっともどかした。衰えぬ程度に日常生活が送れたら良い。集中すると肩もこる。5分とい いから、何回か繰り返すとリハビリになると考え、ゆっくりのんびり無理せずに利用者と共に暮ら していきたいと考えている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について・・・特に改善項目はない。今ある施設をどのように有効に使っていくか を考えている。</p> <p>2. 全体的に見て・・・ホームは母体の病院2階にあり、病院からエレベーターで行く事もできる が、病院横のドアから入ると、下駄箱の横のソファには手作り桌(ふくろう)のクッション、民芸調の 飾り棚を見ながら一直線の階段を昇りきると、ホームへと続く。中央の長い廊下を挟んで居室が あり、その先にリビングルームがある。廊下は格好のリハビリ歩行訓練の場である。先ず目につ くのは、手作り共同作品！紙ストローを主体的に並べて形どった干支作品が並ぶ。ホーム恒例 の年始始めの大作である。ホームの開設から申・酉・戌・亥そして来年の子を作成中。単調な建 物の造りに生きた馴染み空間となっている。</p>		

### III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人のできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について・・・このホームの利用者と職員との関係は、細かい基準を当ててどうだ、あ あだと評価するより、今の状態のままでも改良を続けてもらいたい。</p> <p>2. 全体的に見て・・・いくらでも食べたいCさんは、自分の食事が目の前にあっても、横に配膳さ れた職員のお皿にあつという間に箸が伸びる。自分が全部食べた後は、時間をかけてゆっくり食 べている他の利用者の方に視線が集中「あつちへ行く」と立ち上がろうとするので、隣のテーブルに居 たAさんが「まあ、ここに座りんちやい。お茶飲もう」と声をかける。すかさず職員が、Cさんの視界の 目隠しになるように、どっかと腰けて「私も一緒にお茶飲もう」とにつこり笑いかける。皆さんのことが 良く分かっている。「皆ええ人ばかり、助けられたり助けたり」と話してくれる利用者の言葉に納得し た。このようにお互いに思いやり、寄り合う優しさのある利用者や職員の関係が一番良い。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について・・・この地域では母体の病院や特養ホームは馴染んでいて、ホームの職 員も地域の人も多いことから、今の関係のままでも改善の必要はない。</p> <p>2. 全体的に見て・・・母体の病院の先代の院長が医療と介護が共存して地域住民を支援しなけ ればいけないと、他の医師と共に医療と福祉の街づくりに着手し、特別養護老人ホームの開設に力 を注いだ。残念ながら院長は他界してしまったが、奥様が意志を継ぎ、現在の法人が発展し、この グループホームにもつながっている。ホームの運営は理念を基に管理者に任せているので、現在 の管理者が2年前に就任してから、前述のような利用者本位のケアをして、それぞれの利用者が ゆったりと自分の思ったような生活を、利用者同士助け合っている状態をつくっている。地域住民 の要望もあり、土日だけの通所サービスも加え、地域サービスに役立っていこうとしている。</p>		